

表現運動グループ

『心も体も「なりきり」「のりのり」「フリー」に、はずんで踊る表現運動』

湯梨浜町立羽合小学校 矢萩 陽介

1. はじめに

表現運動は、心と体を解き放って、リズムに合わせたり、想像を膨らませて自分のイメージを体で表現したりすることが楽しい運動である。本実践では、表したい感じやイメージを強調するように変化を付けたひと流れの動きで即興的に表現したり、グループで「はじめ - なか - おわり」を付けた簡単なひとまとまりの動きにしたりして表現していく活動を通して表現運動の楽しさを味わい、さらには、互いのよさを認め合い助け合って取り組む児童を育てることができるのではないかと考えた。

2. 研究の実際

「大変だ！はげしい動きの世界」の実践を通して（5年生）

（1）運動の特性

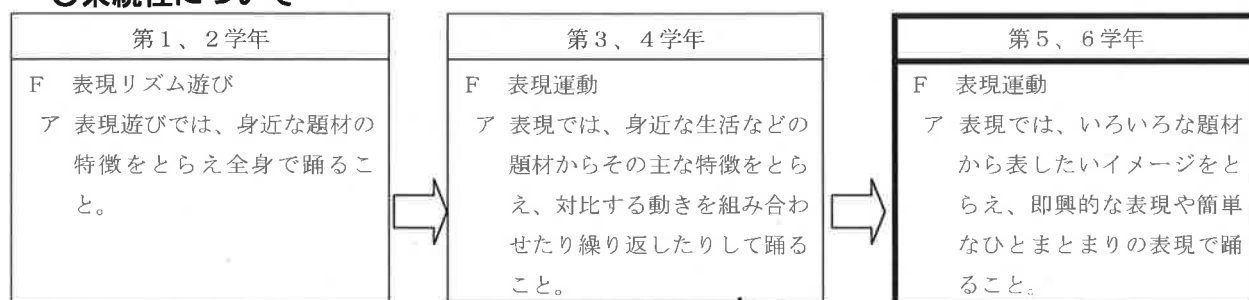
- 自己の心身を解き放して、リズムやイメージの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動である。
- 互いのよさを生かし合ったり、違いを認め合ったりする中で、仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- 身近な生活などから題材を選んで表したいイメージや思いを表現することが楽しい運動である。
- 心と体をほぐして動いたり、体全体を使って動いたりすることで、自信を持って自己表現することができる運動である。
- 「違いがあるからおもしろい」自由で開かれたダンスであり、自由に動きを工夫して楽しむ創造的な運動である。
- 個々の運動能力による差をあまり気にせずに楽しむことができる運動である。

（2）児童の実態

○関心・意欲

本学級の児童25名（男子11名、女子14名）は、昨年度までの学習では、動物になりきる表現遊びや運動会等でリズムダンスを経験している。今年度の運動会種目「組体操」では、みんなでテーマにそった表現をすることに喜びを感じ、来年度の運動会に意欲を持った児童が多くいた。事前に行ったアンケートに対して、25人中20人が体育の学習を好きだと回答し、その理由のほとんどが「体を動かすことが好き」であった。また、23人が表現（表現遊び）を好きだと回答していることから、全体的に運動に関する興味・関心は高く、中でも表現運動の学習に対してとても前向きであることが分かる。しかし、恥ずかしがらずに全身を動かすということに対して、少数であるがマイナスのイメージを持っている児童もいた。

○系統性について



○学びの姿

毎時間、学習のはじめに体ほぐしの活動を取り入れ、心をほぐしながら多様な動きを引き出せるような活動を取り入れた。このことによって、全身を動かして表現することに対して消極的であった児童が、スムーズに活動に入ることができた。グループ間の話し合いや兄弟グループとの話し合いにおいては、活発に意見を出し合ったり、アドバイスし合ったりしながら、自分たちの動きを工夫しようとする前向きな姿が多く見られた。記述式の体育の学習カードをこれまで活用していなかったが、本単元では、自分と友だちの活動を振り返ることにより、学びを積み重ね、よりよい動きづくりの活動となることを目的として活用した。

(3) 単元目標

- 「大変だ！はげしい動きの世界」の表現に進んで取り組み、互いの動きのよさを認め合い助け合っ
て練習や発表をしたり、場の安全に気を配ったりすることができる。【関心・意欲・態度】
- 課題解決の仕方や自分のグループのよさを知るとともに、自分やグループの課題に応じた動きを選
んだり、自分やグループのよさを生かす動きを見付けたりすることができる。【思考・判断】
- 「大変だ！はげしい動きの世界」から表したいイメージをとらえ、ひと流れの動きで即興的に踊っ
たり、簡単なひとまとまりの表現で踊ったりすることができる。【技能】

(4) 単元の流れ及び評価計画（全6時間）

	1	2	3	4	5	6
主なねらい	学習の進め方を理解する。	はげしい動きのいろいろなイメージを、ひと流れの動きで即興的に踊る。		好きなイメージを選び、グループで「はじめーなかーおわり」をつけた簡単なひとまとまりの動きにして踊る。		発表会をする。
核となる学習内容	学習の進め方	激しく〇〇する 急に〇〇する もしも〇〇が〇〇したら みんなでやってみよう。 本物より大きさにしよう。 グループで踊ろう。		好きなイメージを選び、グループで踊る。 グループで共通のイメージを見付け、表したい感じを工夫して踊ろう。	踊りを見せ合っ て、アドバイスし 合おう。	他のグループの工夫への気付き
主な学習活動（「できる・チャレンジする」）	・表現につながる動きづくり ・イメージの共有（イメージバスケット作り） ・オリエンテーション（「4つのくずし」の紹介）	体ほぐし				
		学習のめあての確認				
		【活動1】 ・先生や友だちとやってみる。 ・いろいろな激しい動きをイメージし、その表したい感じを誇張しながら「ひと流れの動き」で踊る。 やってみる・ひろげる 【活動2】 ・活動1を思い出し、共通のイメージを見付けて踊る。 ・表したい感じがよくわかるように、感じを強める工夫をして踊る。 ・「大変だ！」の急変場面を入れて「ひとまとまりの動き」にして踊る。 ・見せ合ってアドバイスし合う。 ふかめる				
		振り返り				
評価計画	関	③	①		②	
	思		①	①	②	②
	技			①	②	②

(5) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能
①「大変だ！はげしい動きの世界」の学習に進んで取り組もうとしている。	①「大変だ！はげしい動きの世界」のイメージから特徴的な動きを見付け自分の動きに取り入れている。	①「大変だ！はげしい動きの世界」からいろいろなイメージをとらえ、ひと流れの動きで即興的に踊ることができる。
②互いのよさを認め合い、助け合って練習や発表をしようとしている。	②気に入った「大変だ！」のイメージを選び、表したい感を強調できるように、変化のある動き、誇張した動きを工夫することができる。	②イメージの表したい感を強調するように「はじめーなかーおわり」を付けた簡単なひとまとまりの動きにして踊ることができる。
③練習や発表する場の安全に気を配ろうとしている。		

(6) 指導の実際

・指導内容の明確化と体系化

児童が見通しを持って学習に取り組めるように、オリエンテーションで単元計画と1時間の学習の流れを児童に示した。毎時間同じサイクルで活動を設定し、動きのステップアップを図った。

表したいイメージを効果的に表現できるように、身に付けさせたい動き（4つのくずし）を掲示して、いつでも確認できるようにした。また、4つのくずしを取り入れている児童の動きを紹介したり、4つのくずしにつながる指導言を予め用意し、声かけをしたりした。

・指導方法の工夫と改善

○単元構成や学習過程の工夫

豊かな動きづくりのためにイメージバスケットを活用した。グループで話し合い、イメージを共有するとともに、多様な動きが生み出せるようにした。また、その中から表したい動きにつながりそうな内容を選んでカルタを作り、表現活動につなげられるようにした。

○豊かななかかわりを工夫した学習展開

友だちの動きを見て、よいところを自分の動きに取り入れる活動を多く取り入れた。特に後半では、グループで共通のイメージを表すために、話し合ったり真似し合ったりする活動を多く設定し、兄弟グループともかかわりながら活動を進めた。

○「習得・活用・探究」型の授業の追究

習得・活用の場面では、イメージバスケットを活用し、先生と一緒に踊ったり、その動きを使ってひと流れの動きで踊ったりする活動を繰り返した。それにより、多様な動きを身に付けることができた。また、身に付けさせたい動きをその中で指導した。探究の場面では、友だちと関わりながら、誇張や変化を取り入れて表したいイメージの動きを工夫して踊り、学びを深めた。

・学習評価の工夫

学習カードを活用し、毎時間振り返りの活動を行った。“自己評価”をする項目と友だちのよい動きについて“相互評価”できる項目を設定した。また、〔できるようになったこと〕と〔そこに至った経過（自分の取り組み方や友だちとの関わり方）〕も記述で振り返ることができるようにした。これにより、それぞれのゴールイメージにそった形成的評価を進めることができた。

3. 成果と課題

【成果】○単元計画や掲示物を作成していく中で、教師自身が押さえるべきポイントを把握することができ、ポイントを絞った指導をすることができた。それによって児童もイメージを表す方法を漠然としてではなく、具体的に身に付けていくことができた。

○予め指導言を用意しておくことで、4つのくずしを誘発することができた。

【課題】○4つのくずしやメリハリ、デフォルメは好きなイメージを表すための手段であるが、意識させすぎるあまり、目的になってしまう児童がいた。

○相互評価について、友だちの動きのどこが良かったのかだけでなく、その動きがどう良かったのかをもう少し深く考えさせることで、次時につなげさせるべきだった。